

専門・認定看護師からの ニュース&トピック

専門・認定看護師の活動にご協力、ご支援、ありがとうございます。
今回は、**感染症看護、集中ケア看護、救急看護、がん看護**の
領域からニュース&トピックをお届けします。



2023年2月発行 第18号

1

「特定行為研修：学習内容など」

いま特定行為研修中の3人から学習内容や、今後の研修予定をお伝えします

「看護師のコミュニケーションスキル」

看護師のコミュニケーションは患者・家族との信頼関係を築くために大切なスキルです。
今一度、基本となるポイントを知って活用してください

「9月発足！がん看護委員会」

2022年発足したがん看護委員会について活動内容をお伝えします

「特定行為研修受講生紹介」



おち たかこ
救急看護認定看護師 越智 貴子
@大阪大学医学部付属病院にて研修中

特定行為研修 開講式

たかはし のりこ
集中ケア認定看護師 高橋 典子

はやし ゆかり
感染管理認定看護師 林 紫
@神戸研修センターにて研修中



特定行為研修受講中

特定行為ってなに？



2

「特定行為」とは、あらかじめ医師が定めた手順に準じて、看護師が診療の補助を行うことです。
 「特定行為研修」とは、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修です。

中央手術室、ICU、4南病棟、救急外来で実習をお願いする特定行為

越智

特定行為区分の名称	特定行為
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更
	人工呼吸器管理がなされている者に対する人工呼吸器からの離脱
血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
	橈骨動脈ラインの確保
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	脱水症状に対する輸液による補正
術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与量調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

- 呼吸器(気道確保)に係るもの関連
- 呼吸器(人工呼吸器関連に係るもの)関連
- 血液ガス分析関連
- 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- 術後疼痛管理関連
- 循環動態に係る薬剤投与関連

特定行為及び特定行為区分(38行為21区分)

特定行為区分	特定行為	特定行為区分	特定行為
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	創傷管理関連	褥(じよく)瘡(そう)又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
	侵襲的陽圧換気の設定の変更		創傷に対する焼圧閉鎖療法
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	非侵襲的陽圧換気の設定の変更	創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去
	人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
	人工呼吸器からの離脱	透析管理関連	橈骨動脈ラインの確保
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	気管カニューレの交換	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
	一時的ペースメーカーの操作及び管理		持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
循環器関連	一時的ペースメーカーリードの抜去	感染に係る薬剤投与関連	脱水症状に対する輸液による補正
	経皮的心肺補助装置の操作及び管理		感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与
心臓ドレーン管理関連	大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助頻度の調整	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整
	心臓ドレーンの抜去	術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーンの抜去	循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
	胸腔ドレーンの抜去		持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整
腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去(腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。)	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうカテーテルの交換		持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
ろう孔管理関連	腸ろうカテーテルの交換	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
	膀胱ろうカテーテルの交換		抗けいれん剤の臨時の投与
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	中心静脈カテーテルの抜去	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗精神病薬の臨時の投与
	中心静脈カテーテルの挿入		抗不安薬の臨時の投与
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整

高橋

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

精神及び神経症状に係る薬剤投与関連

林

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

感染に係る薬剤投与関連

特定行為研修

学習内容について



3

eラーニングを合計226時間、校内実習を24時間、前期・中期・後期に分けて受講しました。

Eラーニング内容

履修科目	時間数
臨床病態生理学	30
臨床推論	34
臨床推論:医療面接	6
疾病・臨床病態概論	30
フィジカルアセスメント:基礎	11
フィジカルアセスメント:応用	23
臨床薬理学:薬物動態	12
臨床薬理学:薬理作用	12
臨床薬理学:薬物治療・管理	23
疾病・臨床病態概論:状況別	12
医療安全学:医療倫理	12
医療安全学:医療安全管理	9
チーム医療論	9
特定行為実践	12
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	18



お知らせ

2/13から当院にて絶賛実習中

高橋:2区分5行為:各行為5症例以上、25症例

林:2区分3行為:各行為5症例以上、15症例

各行為の該当患者さんがおられる部署で、指導医に指導を仰ぎながら実習を行います

外来・救急外来・病棟で実習予定です。各部門の方も
ご協力よろしくお願いたします





コミュニケーションについて ～基本を意識しよう～



4

がん性疼痛看護認定看護師 音地 真理

● 看護師のコミュニケーションスキル

コミュニケーションは、患者・家族との信頼関係を築き、患者の不安を軽減し、患者を支援するために必要なスキルです。

しかし、経験を積むだけでは向上しません。また、コミュニケーションがとれなければ患者のニーズを理解することもできず、ケアに生かすことも難しくなります。

効果的なコミュニケーションは、患者の病気に対する理解や治療のアドヒアランスを促進し、医療従事者の満足度を高め、燃え尽き症候群を回避すると言われています。

みなさんも、悪い知らせを伝えられた患者・家族とのコミュニケーションに難しさを感じている方は少なくないと思います。

今回は、コミュニケーションについてスキルを一部ご紹介します。



● 基本的なコミュニケーションスキル

社会人として基本的なことですが、業務に追われ、ノートパソコンに身体を向けたまま、患者さんと話しをしていませんか。

環境設定

- ・身だしなみを整え、静かで快適な部屋を設定する（プライバシー配慮！）
- ・約束した時間を守り、座る位置に配慮する、目や顔を見る
- ・目線は同じ高さに保つ、挨拶をする、名前を確認する、礼儀正しく接する

質問する

- ・患者に話すように促す、病気だけではなく患者自身への関心を示す。
- ・分かりやすい言葉を用いる



応答する

- ・患者が言いたいことを探索し理解する、相槌を打つ
- ・患者の言うことを自分の言葉で反復する

共感する

- ・患者の気持ちを探し理解する、沈黙を積極的に使う
- ・患者の気持ちを繰り返す

● 傾聴

傾聴とは、相手の話したいことに対して深く丁寧に耳を傾け、相手に肯定的な関心を寄せ内容の真意をはっきりさせながら、共感的理解を示すコミュニケーションの技法です。



ポイント③

傾聴は、ただ話を聞くことではありません。
患者さんの話したいことに耳を傾けましょう。

ポイント①

電子カルテで確認することが終わったら、患者に身体を向け、患者と目線を合わせ、患者自身へ関心を向けましょう！

ポイント②

相槌を打ち、患者さんが何を言いたいのか考えながら、話を聞き、“辛いと感じているんですね”“不安な気持ちなんですね”と患者さんの気持ちを言葉で返しましょう。



コミュニケーションについて ～基本を意識しよう～

● 効果的な傾聴

信頼関係が築け、自分だけではわからなかった自分自身について深く理解することができ、どのような行動をとるべきか気づきかけを与えることが期待できます。

① 話しやすいように促す

・うなずく、間をおく、ほほえむ、
「はい、もっと聞かせてください」と言う、
話しているときは目線を合わせる。余命
など、緊張した内容になった場合は、視
線をそらして話しやすいようにする。

② 短い沈黙に耐える

・沈黙になった場合、すぐに沈黙を破ろ
うとせずにしばらくそのまま様子を見る。
沈黙を破らなければならない場合、
「今何を考えているのですか？」「黙って
しまわれたのは何故ですか？」と聞く

③ 言いにくいことに耳を傾ける

・人は聞きたくないことや聞かれたくない
ことは、小さな声で言葉を埋もれさせて
しまうことがあるため、そのような時は、
話を止めて「話しにくいことですか？」な
ど、声をかけて、そのことについて話し
合う。

視線や言葉がけひとつで、患者さんが、話しやすくなったり、心に秘めていたことを
聞いて欲しいと感じるかもしれません。意識して、実践してみてください。



● ラダー研修のお知らせ

今年度、痛みのケアに関するラダー研修を企画しました。興味がある方は、ぜひ受けてみてください。
日頃の自分自身のケアを振り返るきっかけにしてください。

ラダー研修 レベルⅠ を目指す!

領域Ⅰ・Ⅱ ニーズをとらえる力
身体面(疾患や障がい)
ケアの受け手の全体像
ケアする力
薬剤の取り扱い

- ケアの受け手の年齢や状況に応じ、反応をみながら訴え、症状を確認できる
- 助言を得ながらフィジカルアセスメントを実施し、報告できる
- 助言を受けながら、ケアの受け手のニーズを身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな面の4側面から整理できる
- 医薬品管理の留意点を理解して、安全に薬剤を投与できる

研修内容 **eラーニング**

研修名: その人の痛みを知る

研修目的: 痛みのある対象者の痛みを4つの側面から観察・情報収集を行い、整理を行うことができる

研修期間: **2022年11月18日(金)～2023年1月31日(火)**

研修形態: Eラーニング(ナーシングスキル)視聴、当院のマニュアルで学習する

課題: 1. ナーシングスキルで学習する

- ① 毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬・血液製剤・抗がん剤の管理「GEN-0084」
- ② 麻薬の投与・投与中の観察「GEN-0085」
- ③ 持続皮下注射「GEN-0093」
- ④ がん症状マネジメント: 疼痛(痛み)「ONC-0005」

※上記4項目の「手順」「基本事項」を確認する

2. 当院のマニュアルを確認し学習する
◎ 市立池田病院 疼痛治療プログラム(第8版)
3. 「痛みの治療日記」の内容を確認する
※ライブラリー→マニュアル緩和ケアマニュアル→痛みの日誌から印刷
4. 痛みのある患者を観察する。その情報を「痛みの治療日記」P8・P9・P11に記載する

評価方法:

- ① 課題1, 2を受講し1週間以内に「研修受講後の学びとOJT計画シート」に記入する
- ② 所属長に記載した「研修受講後の学びとOJT計画シート」痛みの治療日記 P8・P9・P11を提出し承認を得る
- ③ 看護部 クリニカルラダー領域Ⅰの引き出しへ提出する

研修企画担当者: がん看護委員会 音地

ラダー研修 レベルⅡ を目指す!

領域Ⅰ・Ⅱ ニーズをとらえる力
身体面(疾患や障がい)
身体面(生活)
ケアの受け手の全体像
ケアする力
ケアの改善・病態把握

- 検査データや画像データから、疾患や症状、腫がいの関連を説明する
- 経過に応じた疾患や障がいの観察と観察をする
- 疾患や障がいによる日常生活上の留意点を挙げる
- 経過に応じた疾患や障がいによる日常生活行動の変化を挙げる
- ケアの受け手の苦痛・安楽の視点から、生活における不自由さを把握する

特に全体像をとらえて課題を判断したと感じるケアの受け手について、以下の点から記述する

- リフレクションにより、自身の実施したケアの評価をする
- 1人のケアの受け手に提供されているケアの全体を把握して整理し、記述する
- ケアの受け手の病態理解に基づいたアセスメントを実施する

研修内容 **eラーニング**

研修名: 痛みのケアに自信をつけよう

研修目的: 痛みのある対象者を4つの側面から観察・情報収集を行い、看護計画が立案でき、実践した看護を振り返ることができる

研修期間: **2022年11月18日(金)～2023年1月31日(火)**

研修形態: Eラーニング(ナーシングスキル)で学習する

課題: 1. ナーシングスキルで学習する

- 緩和ケアにおける症状マネジメント: 疼痛「PCN-0011」
- ※上記項目の「手順」「基本事項」を確認する

2. 「痛みの治療日記」の内容を確認する
※ライブラリー→マニュアル緩和ケアマニュアル→痛みの日誌から印刷
3. 痛みのある患者を観察する。その情報を「痛みの治療日記」のP8・P9・P11に記載し、看護計画を立てる。看護を実践し、その結果を部署でカンファレンスを開催し評価する
★看護計画・看護記録・カンファレンス記録は個人名が特定されない形で提出する

評価方法:

- ① 痛みのある患者を担当し、課題3を実施する。
- ② (1) 痛みの治療日記(2) 看護計画(3) 実践記録(看護記録が実践シート)(4) カンファレンス記録の4点を期間内に所属長に提出し承認を得る
- ③ 看護部のクリニカルラダー領域Ⅱの引き出しへ提出する

研修企画担当者: がん看護委員会 音地

「がん看護委員会」発足



緩和ケア認定看護師 小林 身和子

6

注目！

● がん看護委員会とは

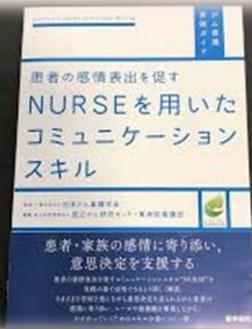
がん治療・療養プロセス



2022年度9月に新たに発足した委員会です。

がん診療拠点病院の看護師として、診断期からあらゆる病期の患者・家族に寄り添い、支援できるようリンクナースの育成と看護実践に取り組む活動を行っていきます

● 2022年度の活動内容



治療期の看護実践 知識を身につける

- ・マニュアルの整備と活用
 - ・抗がん剤副作用など
- ### 意思決定を支える 実践力を高めるために
- ・病状説明時の看護師の役割
 - ・NURSEを用いたコミュニケーションスキル研修
 - ・リンクスタッフ 看護実践の語りなど

2022年度末まであと少しですが、がん患者・家族を支える看護師として、一人ひとりが成長し、現場で率先し看護実践できるよう頑張っています！



研修会



ロールプレイ



看護実践の語り

【編集後記】

18号では「特定行為研修」「がん看護委員会の発足」など新たに動き出した活動を紹介させていただきました。私たちの活動が、患者さん・ご家族へより良いケアが届けられるよう日々精進していきます。

第18号 編集担当者 小林

